

第 1 回協働推進委員会記録

日 時	平成 28 年 7 月 12 日 (火) 18:30~20:30
会 場	豊明市役所本館 3 階会議室 2
出席者	委員：青山孝司、石山英明、市野めぐみ、糸魚川幸江、小池田忠、小島博司、羽田道信、濱田堯、樋口正紀、三矢勝司、矢澤久子、山崎恵美子（以上 12 名） 学生オブザーバー 1 名 豊明市：市民協働課長補佐兼協働推進担当係長、協働推進係職員（1 名）

議 事

委員長あいさつ

新規委員、事務局自己紹介

前回議論のふりかえり

- ・「第 5 回協働推進委員会記録」により、前回会議の内容を確認した。

1 報告事項

(1) 地域協働拠点及び地区交流拠点について

- ・資料 1 に基づき事務局より報告をし、下記のとおり議論を行った。
 - ・食事を提供している「青い鳥けやきの森」（三崎町ゆたか台）も地区交流拠点ではないか。既存の地区交流拠点の掘り起こしも重要である。
 - ・地区交流拠点を運営していく上で、収支のバランスが重要である。また情報発信も重要である。
 - ・三崎区は、サポート体制（商店街等）が充実している。地域によっては、地域 NPO のみで運営していかなければならないところもある。そのような場合に、金銭面や労働力の面で支障をきたすのではないかと感じる。
 - ・地域役員のかかわりは欠かせないが、一方でそうでない人のかかわりも欠かせない。役員以外が中心で運営していくことで新しいモデルがうまれるのではないか。

(2) 地域活動及び市民活動への助成金について

- ・資料 2 に基づき事務局より報告をした。また学生オブザーバーである愛敬さんのボランティア活動の記事を紹介し、下記のとおり議論を行った。

愛敬さん報告

- ・まちかど保健室で学生が買い物支援を始めたが、まだまだ応募が少ない。買い物支援とは、利用者にまちかど保健室まで来てもらい、そこからいっしょに買い物に出かけ、家まで荷物を運ぶ支援。
- ・継続してボランティア活動を行えると人と人とのつながりができ喜びが増す。

愛敬さん報告を受けての委員の意見

- ・サービスの利用は無料だが、お茶やお菓子を用意する必要があると感じ、なかなか依頼しにくい状況があるのではないかと。利用料を100円としたほうが、逆に気を使わずに依頼しやすくなるのかもしれない。
- ・利用実績が地域の回覧板等で情報発信されるとよいのではないかと。

助成金に関する議論

- ・H27一般コースの応募は17件あり、7件の採択となっているが、H28一般コースへの不採択10団体の申請はあったのか。
 - なかった。
 - 一宮市では、助成金申請に対する相談窓口を設け、申請書の書き方についても助言を行っている。このような相談窓口を設けてはどうか。
 - 豊明市でも相談期間は設けており、今年は7団体から相談を受け、1団体は地域サロン交付金を利用してもらうよう案内をした。相談件数は7件あったが、それでもH27と比べると少ないため、なんらかの原因があるのではないかと考えている。
- ・助成金審査をとおして感じたことは、申請事業が持続可能な事業なのか、今後助成金がなくなった場合に自立できるのか、という点が気にかかる。
- ・地区交流拠点のような取り組みを支援していくためには、持続可能な運営についての知恵や技をわちあつていく機会を設けること（先進地や市内成功例から学ぶ）が重要である。
- ・無理しない程度に活動を継続していくことがポイントである。たくさん事業を詰め込みすぎると事業疲れしてしまう。新規事業を行う場合は、多様な主体を巻き込むことで団体の負担を軽減できる。
- ・拠点部門の助成金制度があるとよい。

(3) 協働ラベリングの運用について

- ・資料3に基づき事務局より説明をし、下記のとおり議論を行った。
 - ・協働の相手の中に、他の行政機関を含めて評価してはどうか。
 - ・協働になじまないものは、なじまないと公表すべき。整理が必要。
 - ・公園のリノベーションについて、市民が継続的に話し合い、案を出し、市がリノベーションを行ったが、これはどのレベルになるのか。
 - 協働レベル3に該当する。
 - この事業に関わったものとして、協働レベル3と評価されたが、かなり市民は関わったと思う。

- ・協働ラベリングは、行政活動における協働の可能性を引き上げる取り組みであるが、各課の協働事例を把握し、そこから地域社会活動に光をあて、評価していくことも協働推進につながるのではないかと。

以上のことを踏まえ、委員長がつぎのとおりまとめた。

- ・すべての部署に働きかけたことに大きな意味がある。協働の余地があるところ、ないところが明確となった。
- ・協働ラベリングのグラフからもわかるように、「協働の攻めどころ」がわかったことは大きな成果である。

2 協議事項

(1) 今年度のスケジュールについて

- ・資料4に基づき事務局より説明をし、下記のとおり議論を行った。
 - ・地域協働拠点と中間支援組織について、一宮と同じように行政の協働推進部局と中間支援組織が同居して運営することが望ましいと考える。やはり市役所に行くのはハードルが高い。
 - ・一宮市、知多市、大口町と視察に行っている。めざすべき姿は見えているのでスタートを早々に切ってみてはどうか。
 - 扶桑町へ視察に行くのは、拠点検討委員会等の具体的な進め方について学ぶためである。
 - ・中間支援組織でも活動の内容や対象は多様であり、「市民連いちのみや」のように地域住民主体で地域住民を対象に運営をしていくのか、それとも「サポートちた」のように他市町のサポートも行う中間支援組織をめざすのかで大きく異なる。
 - ・協働推進委員会とは別で、拠点検討についてワーキンググループを設置してもらえないか。
 - ・ワーキンググループには、拠点検討に興味がある市民を巻き込むことが重要。

(2) 第2次豊明市協働推進計画概要版について

- ・資料5に基づき事務局より説明をし、下記のとおり議論を行った。
 - ・体系図はなくてもよいのではないかと。削除して文字を大きくしては。
 - ・文字数を減らし、メッセージ性をもたらす工夫が必要。
 - ・内容がわかりにくい。表紙にひかれない。
 - ・計画にあるP.23の「地域協働拠点と地区交流拠点の関係性（イメージ図）」を入れ、この計画のポイントであることを伝えてはどうか。また、4ページあたりにすでに始まっている取り組みを掲載してはどうか。
 - ・概要版であるため、本体が読みたくなるような工夫が必要。情報が多い。

3. その他

次回は11月を予定。会議内容調整後、ご案内予定